

### 3. 経営学部

#### 【現状説明】

本学部は、学部創設以来、「経営学全般にわたる専門的知識を修得し、国際社会において活躍できる幅広い教養を身につけた国際人の養成」を理念としている。この理念のもと、世界各国の様々な経営風土において、その社会の発展に貢献し得る有為な人材の育成を目的として掲げている。具体的に次に掲げる3つの教育目標を定めている。

- (1) 経営学全般にわたる基本的知識や専門的能力を修得すること
- (2) 問題の本質を究明し、主体的に解決する能力を修得すること
- (3) 自己の意見を形成し、明確に表現できる能力を修得すること

本学部では、学部の理念と目的を教育の中で実現するに当たって、その対象を広く「国際経営」領域と規定して、合理的な指導システムを構築していると理解される。そして、上記の3つの目標を効率的に達成できるように、適切なカリキュラム（教育課程）の編成を行っている。

上記の(1)については、経営学部固有の教育目標であり、優れた教育スタッフによる多彩なカリキュラムによって遂行されている。また(2)については、「自分で問題を発見し、考え、解決する能力を備えた学生を育てる」という方針で取り組まれている。さらに(3)については、「自分の考え、思考、感情を口頭、文書、身体などで表現できる学生を育てる」という方針で指導されている。

この(2)と(3)の方針にもとづいた具体的・特徴的な教育内容としては、一方で「FYS(基礎演習Ⅰ)」を中心とした基本科目区分(基礎・外国語・健康科学の科目群)であり、他方で演習(ゼミナール)の必修制、卒業論文の提出義務、インターンシップ等の実習教育などである。

#### 【点検・評価】

本学部の目的とする「国際社会の発展に貢献し得る有為な人材」という場合、単に国際社会での良識ある平均的市民の育成にとどまらない。高度知識社会の形成に主体的に取り組むことのできる、指導的人材の育成が求められていると言える。

このような指導的国際人の育成を、入学後4年間でどのレベルに到達するまで教育することが求められているのか、必ずしも明らかになっていない。経営学部がその教育目標とする学生像をより具体的に抽出し、その特性を明らかにする必要がある。しかも、個々の学生の個性の伸長という学部の使命を遂行するプロセスの中で、画一的にならない範囲での目標とする学生像を確立しなければならない。

「国際経営」教育のコア領域たる上記(1)の経営学全般にわたる教育内容については、経営学部の理念や目的との整合性の中で、現代社会のダイナミックで多様なニーズに応えるために、多彩なテーマや分野をどう統合し、あるいはセグメンテーションするか、改めて問われている。従来、経営学部で構築し、カリキュラム編成に組み込んだ教育・研究体系の再構築(リストラクチャリング)が求められている。

次に、本学部が教育目標とする上記(2)の問題解決能力の修得と(3)のプレゼンテーション能力の修得を、入学する学生の多様な能力や意欲の実体に対応して、全体として効率的に達成せしめるための教育・指導プログラムを見直すことも課題になっている。

#### 【改善方策】

本学部の理念や目的については、現状の分析に基づく点検・評価を踏まえて、次のような方策で必要な改善に取り組むこととする。

第一に、本学部の将来構想(マスタープラン)を2008年度末までに策定して、その中で

学部教育の動機づけを示す理念と目的を改めて検討し、確立することとする。

第二に、学部の教育目標に照らして、どのような学生を育成し、将来の学生像を提示するために、学部創設20周年に当たる2009年度において、本学部のブランド構築プロジェクトを推進し、その中で、「経営学部の期待する学生将来像」を明らかにすることとする。

第三に、本経営学部の理念や目的との関連で、学部の学科・コース制のあり方、国際教育の方向、社会貢献・連携の事業、学生のサポート体制、教員の研究体制など総合的に検討することとする。そのための継続的推進機関として、2009年度6月までに教授会内に「将来構想推進委員会」を設置する。

第四に、本学の学園の方針並びに大学の目的に準拠しつつ、また、文理融合教育領域の開発や大学存立の条件整備などの変動要因に動的に対応する中で、学部独自の方針やビジョンを明確にして、社会の要請に応えることができる持続的発展の期待される経営学部とするために、構成員の意識改革を推進することとする。これを効率的に実現するためには、学部内の自己点検・評価実施委員会及び学部、研究科のFD委員会の活動を中心として具体的に展開する。